

Beすけっとのこれから

去年はたいへんな年でした。

しかし、いつまでも「たいへんだ！たいへんだ！」というわけにもいかず。

徐々にですが、体制も立て直りつつあります。

そんなBeすけっとではありますが、この一年間で学んだこともたくさんありました。それというのも、震災にあったからと言うわけではないでしょうが、ひとり一人が自分の生活を見つめ直し、考えた一年だったと思います。

その中の一つとして、やはり、この一年で神戸を含めた被災地に来たボランティアの人たちとの人間関係の作り方などから、自分の生活の作り方を考えさせられました。

そういった意味で、「自立生活センター」の事業としてのピア・カウンセリング、自立生活プログラムの重要性でした。

詳しくは総会の日にご報告いたしますが、この一年は介助派遣部門以外のこれらの分野にも興味を持って取り組んでいきたいと考えています。

(事務局長 井奥裕之)

◆報告◆

リフトカーが来たぞ！

1月12日に待望のリフトカーの贈呈式に行ってまいりました。

リフトカー！それも新車ということで、9時30分受付、10時贈呈式開始にも関わらず、遅刻してはダメだと、意気込んで家を出て、会場の兵庫県教育開館に着いたのが8時30分で、まだ、会場の準備をしている中、「9時30分からですよ」と係の人に言われ、1時間程、ロビーで休憩して、贈呈式に望みました。

贈呈式が滞りなく済み、新車の香りのするリフトカーに乗って、帰ろうと発車の準備をして、Beすけっとの前に止まっていたもう一台のリフトカーに乗って帰ろうとしていた障害者の人がいて、その人が乗るのを見ていました。すると、何ということでしょう。

天井が低くて、頭をぶつけているではないですか。

その光景を見て、この車は使いもんならんのんちゃうか！という気持ちが芽生えました。

この車の利用については、まだまだ決まっていません。

かといって、正会員の皆さんの日常の足として、動くつもりもありません。まだまだ、先の見えないリフトカーの使い方ですが、正会員の皆さんの利用しやすいものを作っていきたいと考えています。

その時は、どんどん利用してください。

後、この車の愛称を募集しています。

思いつきでもいいですから、どんどん申し出てください。

コラム 「お魚さん」

魚屋さんにならべられた「お魚さん」も「お魚さん」である。
でも、水族館で泳ぐ「お魚さん」も「お魚さん」である。
そんな、「お魚さん」を見て、思う。
やっぱり、「お魚さん」は、水の中（海、川、湖）を泳ぐのが、
「お魚さん」なのである。

Beすけっと、被災地センター、我思う

野崎 泰伸（Beすけっとアルバイト）

1995年1月18日、私はBeすけっと事務所に来る予定だった。アルバイトに入るための顔合わせだったと思う。
ご存じの通り、17日の震災で、それもつぶれてしまった。しかし、4月になって再びお声がかかった。この事務所へ来たのはその時が初めてで、しかも、横に「被災地障害者センター」なるものが存在していた。ウォー、訳ワカラん！
1995年は8ヶ月働いた。Beすけっと内部でも、いろいろ変化があり、週に半分しか来ない私としては、状況がよくつかめない。
地域には住んでいたのだが、本格的な関わりは地震以降で、その意味では被災地センターの専従っぽいかな、とも思う。
何かいい加減にやっている自分が見えて嫌だ。
いい加減な体制も見えて嫌だ。まあこれはみんなの協力でなんとかなるだろう。運営自体に関わりたいとは思わないし、事務の仕事に慣れてきたから、事務をいかに効率的にわかりやすくするか、といったところで関わっていききたい。
介助の依頼で言えば、今は被災地センターの方が信頼があるようだ。Beすけっとには実際介助会員は少ないし、特定の介助会員ばかりが動いているような気がする。そのような現状を変えていくためにも介助会員募集の企画に、正会員、介助会員の皆さんに手伝っていただきたいと思う。地震前からここに関わっていた方、私はあまり知らないのですが、また機会があれば事務所に来ていただきたいと思う。
被災地センターに来ているボランティアや職員の感性はすごく私を引きつける。こんな出会いがあって、人間関係ができてくる。私は学生だが、こんなすばらしい関係（ちょっとしんどいけど）が学校以外にできて幸せだ。
これからも時間があればゆっくりと関わっていききたい。

事務局の風景より

「ちょっと、待ってね」

ふなはし ひろのぶ

新開地にある事務所には色々な人がやってくる。正会員である障害者たち、その介助者、介助会員、介助会員になるための説明を聞きにくる人たち、おとなりの「被災地障害者センター」の職員さんやボランティアさんたち、他の団体の人、集金の人、などなど。
なかなか退屈しない。どころか狭い事務所なので、ときには足の踏み場がなくなり、人の熱気でむんむんして、往生する。うれしい悲鳴。

しかもみんなうるさい。事務局員もうるさいが、訪問者たちも輪をかけてうるさい。静かに大人しくしているのは、初めて訪問する介助会員希望者くらいだ。

井奥事務局長は飽きたり、煮詰まったりすると歌う。または、吠える。澤田代表も「ホー、ホー」と吠える。バイトの野崎君は仕事上の困難にぶつかりと唸る。同じくバイトの野橋ちゃんも大声で電話で話す。彼女の声は事務所を制圧する。これらの声の数々の負けないように訪問者たちも大声を出す。かくして、「Beすけっと」の事務所はとてものにぎやかだ。仕事にならないいったらありやしない。

さて、そんなにぎやかな事務所に居てふと思った。

声を発することが出来る、あるいは、大声で文句を言い合っているのはとても幸運なことだなあと。

この事務所にくる人々の多くは、黙っていたらどうにもならないことを知っているから、叫び、吠え、唸り、そして歌う。「私はここにいるんだ」と。

事務所でも、トイレや食事介助など頼まれることがある。こちらはこちらの都合があるので、「エ～」と言った後、「ちょっと、待ってね」と付け加えてしまう。その後自分の中で感じる。「待てないから、頼んでるんやろな」と。

現場の介助活動の場面でもよく使う言葉である。「ちょっと、待ってね」。

年度末に「Beすけっと」が行なったピア・カウンセリング集中講座の際、リーダーを務めて頂いた埼玉の村山美和さんの詩を引用させてもらおう。

『あんドーナツ』

(前略)

タクシー乗り場近くのベーカリー
母は あんドーナツを買うという
私もゆうゆう入れる入口
中もそんなに狭くない
行こうとした私が店先でとまった
ちょっとまっててね
わたしの両手にそんな言葉が
むぞうさに預けられた

パンをガラス越しに覗きながら
ひさしぶりだなあ こんな感じ

置いていかれるわたし
行動するわたし
どちらが本当なのかしら
置いていく社会
いっしょに歩こうとする社会
どちらが現実なのかしら

確かなのはたいしたことない人間がひとり
私の顔をして車椅子に座って生きていること

(以下 略 『あんドーナツ ～「ひとりで暮らすよ」と言えるまで～』村山 美和・著 発行・七七舎 発売・筒井書房)

お母さんは何の気なしに「ちょっとまっててね」と言ったのだろう。

その後の詩の内容から察するに、村山さんはその言葉を彼女なりに受けとめたのだろう。そのように出来る人は幸いである。あるいは「待てない」と言い返せる人も幸いである。

待てないから頼んでいるとしたら。その上に「ちょっと、待ってね」という言葉はどのように聞こえるのであろう。さらに、そこで感じる気持ちを自ら押し殺すとしたら、障害者は待つことのプロにならなければやっていけないだろう。

障害者が一生の中で最も多く聞く言葉が「ちょっと、待ってね」かも知れない。

いろいろ抱えて忙しく、目がつり上がっているときは澤田代表の文字盤の読み取りもなかなかスムーズに行かない。人から何かを頼まれても余裕がないと、邪魔されるような気がする。そんなとき荒々しく「ちょっと、待って」と言い放ってしまう。

もう少し何事ものんびりと向き合っていけたらな、と思いながら事務所での時間は瞬く間に流れて新しい1週間が始まる。最近「Beすけっと」もとても忙しい。余裕をなくしかかっているかもしれない。

澤田代表の座右の銘「なんとかなるやろ」で、やっていきたいのだが。

◆報告◆

障害者問題連続講座

実行委員長 野崎 泰伸

■第1回を終えて

95年11月23日、連続講座「宝物をさがそう」がスタートしました。当日の第1回目には、思ったより人が集まり、とりあえずは良かったのではないかと思います。

内容としては、「震災後の障害者の生活」ということで、ビデオ鑑賞、寸劇、シンポジウム、交流会という流れで行いました。ビデオは、被災地障害者センター代表で、「Beすけっと」の正会員でもある福永氏の震災後の活動についてのものでした。テレビで放映されたので、一度見た人も多かったように思います。

劇の方は、正会員の山本健隆氏の震災直後の生活体験を披露しました。これには会場にいた人が結構どよめいていたようです。反響大、です。シンポジウムは、先ほどの山本氏、正会員の野橋氏、大阪で救援活動に関わっている本田氏、そして自治労の斎藤氏の4人がそれぞれの立場で講演しました。その後、交流会が行われたのですが、夜遅かったこともあり、ほとんどスタッフのみで盛り上がったのは残念でした。

参加された方にアンケートを書いていただいたのですが、それによると、よかった、という声が多かったのですが、改善点も指摘していただき、次回にはもっと良いものを作っていくと思いました。

正会員、介助会員問わずスタッフとして動いてもらえる人、大募集しています。

目的として、最終的には、障害者問題に興味を持ってもらって、全員登録してもらうことです。スタッフの仕事は、会議に出席すること、その他もろもろありますが、今はそれぞれ班に分かれて、その中で話を煮詰めています。

ということで、簡単ではありますが、第1回連続講座の報告とさせていただきます。

■第2回を終えて

去る1月27日、Beすけっと主催の障害者問題の学習会が県教育開館にて、盛況の下に行われました。テーマは、「介助について」。

実行委員長である私の不手際もあり、はじめのあいさつは少しまとまりがなかったものですが、続いて行なわれた1

時間目は「介助概論」。

「概論」の講師は井奥事務局長。内容は、本にあるようなものではなく、彼の経験と、そのことについての彼の思い、そこからくる障害者と介助者の関係性、のようなもので、参加者に資料を読ませるなど、彼は「先生」を演じきっていました。

2時間目は舟橋事務局員のプロデュース（？）の下、正会員の有志が書き下ろした脚本を自演の寸劇で表現する「介助各論」。

主演者（＝脚本を書いた人）と、寸劇の題を示しますと……

脚本／主演	合田 知加	「父親と風呂に入る関係」
	沢田 隆司	「怒り」
	鈴木 由美	「ある日の出来事」
	野橋 順子	「何があっても自分の口から」
	山本 健隆	「介護の人とのつきあい方」

続いての「休憩」。各班に分けて、軽食をするという設定で、実際に介助体験をしてもらおう、というのが主眼でした。実行委員の不安をよそに、分けた各班のそれぞれが、盛り上がって、初めて来た人も自然に（？）介助にはいって、いい雰囲気的空間であったと思います。

3時間目は「学級会」。一言でくくるなら「障害者と介助者の位置関係」についてのフリー・トークでした。詳細はお伝えできませんが、熱のこもった議論がもりあがり、司会である私も戸惑いましたが、一緒に司会をしていた被災地障害者センターの西川さんと、苦労しながらも何とか乗り切ったのではないかと思います。

以上、私なりに総括しますと、「介助について」、考えてもらうに値する会ではなかったかな、と思います。ご出席された方、もしよければ感想などを聞かせてもらおうとありがたいかな、と思います。

事務所に遊びにきた「いくちゃん」の独り言

Beすけっとに来たのが2回目なのですが、初めて一人できました
迷いました！
フナハシさんと話すのはめっちゃ楽しいです。うちは密かに哲学の授業が好きだった。
今日一番ショックだったことは、風船が死んでいて。前回来た時はあんなにも元気だったのに…。
Beすけっとの印象は、うちにはまだまだ未知の世界。だからこれから、いっぱいいっぱい知っていきたい。
なんかねーフナハシさんの標準語にちかい話し方がねー、やけに説得力があってねー
ここにくると色んなことが知れて、好奇心旺盛なうちにとっては、ドキドキなのだ。
まーちゃん（有岡さん）からBeすけっとのことを聞いて、訪れて、よかったと思ってます。
神戸医療福祉専門学校中央校 介護福祉士科2年
有岡さんのお友達の池沢郁佳でした。

作成 96年4月

1996年1月	
10（水）	Beすけっと事務局会議
16（火）～17（水）	震災1周年 メモリアルイベント「いやしと点検・大いどう」に参加
19（金）	Beすけっと運営会議

2月	24 (水)	介助会員募集のビラまき (1000枚 学園都市にて) Beすけっと事務局会議 被災地障害者センターとの合同会議
	27 (土)	障害者問題連続講座「宝物をさがそう」第2回 (※報告文章を見てね)
	31 (水)	Beすけっと事務局会議
3月	1 (木)	チケット研究会 (※内容については、コラムを見てね)
	7 (水)	Beすけっと事務局会議
	14 (水)	Beすけっと事務局会議
	15 (木)	Beすけっと運営会議
	21 (水)	Beすけっと事務局会議・チケット研究会
	22 (木)	被災地障害者センターとの合同会議
	28 (水)	Beすけっと事務局会議
3月	6 (水)	介助会員募集のビラまき (1000枚 三宮センター街にて) Beすけっと事務局会議
	9 (土)	障害者問題連続講座「宝物をさがそう」第3回 共に生きられない社会 講師 牧口一二さん、山田剛司さん
	12 (火)	チケット研究会
	13 (水)	Beすけっと事務局会議・被災地障害者センターとの合同会議
	16 (土)	障害者春闘に参加
	22 (金)	Beすけっと運営会議
	23 (土)	東京より、玉木さん訪問 Beすけっと事務局会議
	27 (水)	チケット研究会
	30 (土)	「障害者問題を考える兵庫県連絡会議」の総会に参加 今年冬に予定されている「障害者政策研究全国集会」準備会に参加
	31 (日) ~4月	ピア・カウンセリング集中講座 (神戸市心身障害者福祉センターにて)
	1 (月)	リーダー 村山 美和さん (埼玉県)、飯塚 博子さん (西宮市) 総参加者13人 JIL・ピアカン小委員会の後援による

コラム 「チケット研究会」って、なんや! ?

お答えしましょう。ここでいう「チケット」とはいわゆる「介護券」のことです。正確には、神戸市の制度である「全身性障害者介護人派遣事業」における「介護券」です。この春から、在宅の障害者は上限が120時間になり、単価も10円だけ上がって、1390円になった、例のあの券です。

ところが、「Beすけっと」利用の1時間単位は、ご存じのように850円で、「介護券」との間に差額が出てしまいます。そこで、「Beすけっと」は発足以来この問題をクリアーするために「Beすけっと」を3時間利用したら、「介護券」を2枚切ってください、という風をお願いをしてきました。

やっかいなことに、このクリアーの仕方には限界があり、また、ある部分でわかりにくいところが残ってしまいます。正会員はもとより、実際に「介護券」の処理を行なう私たち事務局員自身が非常に混乱していたのが現実です。この問題が一つ。

次の問題として、「Beすけっと」の今までの**集金方法の不備**があげられます。「Beすけっと」は、3ヶ月間の継続的な介助契約をこれまで正会員・介助会員双方にお願いしてきました。そして、介助契約の内容はコンピュータに入力され変更のお電話がないかぎり、契約どおりに介助活動が行なわれているとみなしてきました。ところが、人間の生活というものは、あるいは、介助という行為は、計算したとおりに動くものではありません。そこで、実際の介助活動と、コンピュータで処理されて上がってくる請求用紙との間に誤差が出てしまったのです。

この問題は実に根深いものがあり、本当に会員の皆さんには多くのご迷惑をおかけしてしまいました。この場を借りて謝罪します。本当に申し訳ありませんでした。また、こういった「Beすけっと」のあり方に（当然ながら）反発して、「Beすけっと」に見切りをつけた会員の方もいると思います。残念でなりません。

システムの問題、あるいはそれを放置してきた事務局の怠慢によって、このように人のつながりが壊れてしまうのは本当に悲しいことです。そもそも、「Beすけっと」とは、**障害者への有料介助活動（アテンダント）を通して、人と人をつないでいくことを目的にした組織**のはずです。それが、実際には正反対のことをやっちゃっている。これはあかんぞ！という問題意識のもと、「チケット研究会」という集まりをはじめました。

参加者は、「Beすけっと」の運営委員の有志、事務局員の有志、被災地障害者センターのボランティアなどなど。「**介護券**」とのつきあい方、**そもそも、介護料をどう捉えるか、わかりやすい集金システムの構築**、この3点ほどにしばらくこんで議論を積み重ねてきました。長いトンネルを共にくぐってきたような気がします。ようやく方向が見えてきました。いずれ、新しいシステムに関しては、「Beすけっと」の総会などで提起させてもらいたいと考えています。

「チケット研究会」ではこんなことをやっています。

正会員のみなさまへ

第4回Beすけっと総会のお知らせ

みなさまには、以前お手紙でお知らせしましたが、「Beすけっと」の第4回総会の詳しいことが決まりましたので、ご案内します。

日時：5月25日（土） 午後1時より～4時まで

場所：神戸市立心身障害者福祉センター

（ちかくのえき 「しんかいち」か、ちかてつの「みなとがわこうえん」）

※ 近々、総会の議案書などを送ります。なるべく目を通して、ご参加ください。

なお、当時欠席される方は、必ず同封の委任状を事務局まで送り返してください。

編集後記

「Beすけっと」に機関誌があったのかと驚かれるほどたまにしか出ない「THINKING YOUR LIFE」の6号をお届けします。半年に1回の割合というのんびりペースです。もう古くなってしまった原稿もあります。ごめんなさい。今回の記事のほとんどは事務局員が書いてますが、今後は正・介助会員の生の声を載せていきたいと思ってます。ご期待を。編集を手伝ってくれた「被災地障害者センター」のFくん、感謝！

[付属資料（Beすけっとビラまきのお知らせ）あり 省略]